花き

花き類・観葉植物

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
疫病	1. 発病株は発病土を飛散させないよう抜き取り処分する。 2. 定植床は高くし、多雨などにより冠水しないようにする。 3. 用土は蒸気80℃、10分～15分で消毒する。	1.抜き取った株も伝染源になるので圃場外で処分する。

カーネーション

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
斑点細菌病	1. 雨よけ栽培を行う。	1. 露地栽培で梅雨期と秋期雨の多いとき多発する。 2. 病原菌は、ストレリチア、トウモロコシ、ルスカス、ブーゲンビレアにも病原性があるので注意する。
ウイルス病	1. 無病苗を用いる。 2. 親株は他の株と区別して栽培管理する。 3. 親株の摘心には刃物を使わず指で折る。	1. アブラムシ類により伝染する。 2. 無病株を管理する場合は必ず石けんで手を洗い作業する。芽とり時、刃物は使わない。 3. 病株に使ったハサミは、無病株に使わないようにする。
サビダニ類	1. 発生後は被害茎を切り取り処分する。	1. サビダニ類は、葉の基部と新葉の合わせ目にいる。

ガーベラ

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
えそ輪紋病〔トマト黄化えそウイルス(TSWV)〕	1. 本病の原因はトマト黄化えそウイルス(TSWV)である。 2. 本病はアザミウマが伝搬するので、防除を徹底する。 3. 発病株は抜き取って処分する。 4. 換気口などの施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し、アザミウマの侵入を防ぐ。 5. 野外でのアザミウマのウイルス保毒率を低下させるため、雑草等の野外宿主を除去する。	1. 主要媒介種はミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマなどである。
根 腐 病	1. 低湿地で排水不良の場所には栽培しない。 2. 発病地では連作を避ける。 3. 無病苗を購入する。 4. 用土は次の方法で消毒する。 蒸気80℃で10～15分 5. 発病株は発病土を飛散させないよう抜き取り処分する。	1. 発病株の残渣は圃場外で処分する。
株枯病	1. 養液栽培で発生が多く、株元が過湿になると発生しやすい。 2. 無病苗を購入する。 3. 株元の通風を改善する。	1. 発病株の残渣は圃場外で処分する。

き く

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
茎 枯 病	1. 本ぽでは発病葉を除去して薬剤を散布する。 2. 発病には品種間差があるので、抵抗性品種を栽培する。	1. 病原菌の適温は15～25℃である。湿度が高いと発生する。 2. 新精興、銀鏡、寒映光などは特に弱い。
花 枯 病 花 腐 病	1. ハウス内はできるだけ通風を良くし、被害花はそのまま放置せず早めに処分する。	

き　く

病害虫	防　除　方　法	防除上の注意事項
菌 核 病	1. 被害株はそのまま放置せず早めに処分する。	1. 花き類・観葉植物の菌核病に適用のある薬剤がある。
ウイルス病	1. モザイク症状の株から芽を取らないようにする。 2. アブラムシ類の寄生のないように早くから防除につとめる。	
えそ病[トマト黄化えそウイルス(TSWV)]	1. 本病の原因はトマト黄化えそウイルス(TSWV)であるので、ウイルスが感染していない母株から芽を取る。 2. 本病は主にミカンキイロアザミウマが伝搬するので本虫の防除を徹底する。 3. 発病株は抜き取って処分する。 4. 施設栽培では施設開口部に防虫網を張り、野外からのミカンキイロアザミウマの侵入を防ぐ。 5. 野外でのミカンキイロアザミウマのウイルス保毒率を低下させるため、雑草等の野外宿主を除去する。	
わい化病	1. 本病の原因はキクわい化ウイロイド(CSVd)であるので、ウイロイドが感染していない母株から芽を取る。 2. 伝染は汁液によっておこる。手指はこまめに洗うとともに、ハサミは5%第三リン酸ソーダで消毒し、伝染を防ぐ。 3. 発病株は根を含めて抜き取り処分する。	
紋 々 病	1. 発病株から挿穂をとらない。 2. 摘心した芽は土中深く埋める。	1. 本病はキクモンサビダニにより起こる。 2. キクモンサビダニは芽付近に寄生している。
軟 腐 病	1. 発病地で連作する場合は土壌消毒を徹底し発病株から挿穂をとらないようにする。	1. 野菜類の軟腐病と異なり、葉柄や地際部から始まった黒変が維管束に沿って周囲の葉や茎に広がるという特異的な病徴を示す。 2. 苗場で地際部に出たときには茎枯病と類似する。また、本ぼで発生したときは青枯病や半身萎凋病などの導管病と間違えやすい。
キクスイカミキリ	1. 成虫出現期(4月中旬～6月上旬)に成虫を捕殺する。 2. 被害をうけた新芽は加害部の5～6㎝下から切りとって焼却する。	1. 被害株では新芽が急激にしおれる。 2. 成虫は体長が1㎝程の小型のカミキリムシである。

金魚草

病害虫	防　除　方　法	防除上の注意事項
苗 腐 病 (根腐病)	1. は種用土は、次の方法で消毒する。 蒸気80℃で10～15分用土	1. 潅水はなるべくきれいな水を使用し、溜め水は使わない。 2. 蒸気消毒の場合、土壌が過湿にならないように注意する。 3. 発病株の残渣は圃場外で処分する。
炭 疽 病	1. 発病のはなはだしい茎葉は切り取り集めて処分する。	1.切り取った茎葉も伝染源になるので圃場外で処分する。

きんせんか

病害虫	防　除　方　法	防除上の注意事項
エゾギクノシンムシ(ｴｿﾞｷﾞｸﾄﾘﾊﾞ)	1. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し侵入防止を図る。	1. 成虫は4月頃から発生し、幼虫がキク科の植物を加害する。

グラジオラス

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
硬 化 病	1. 連作常発地では植え付け前に次の方法で土壌消毒する。　蒸気80℃で10～15分	1. 掘りあげ時に被害の甚だしい球根は抜き取って処分する。
乾 腐 病 首 腐 病 菌 核 病	1. 連作常発地では植え付け前に次の方法で土壌消毒する。蒸気90℃以上で30分以上 2. 球根は、掘りあげた後、十分に乾燥させてから貯蔵する。	1. 掘りあげ時に被害の甚だしい球根は抜き取って処分する。 2. 花き類・観葉植物の各病害に適用のある薬剤がある。
モザイク病 ウイルス病	1. 発病の甚だしい株は見つけ次第抜き取って焼却する。 2. アブラムシが媒介するので、アブラムシ類を防除する。	1. モザイク病はキュウリモザイクウイルス(CMV)、ウイルス病はインゲンマメ黄斑モザイクウイルス(BYMV)が主で他3種のウイルスが病原ウイルスである。

シクラメン

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
ネ コ ブセン チュウ類	1. 用土を使用前に次の方法で土壌消毒する。　蒸気で80℃ 10～15分	1. サツマイモネコブセンチュウ、アレナリヤネコブセンチュウが寄生する。 2. 土壌消毒の項を参照。 3. 花き類・観葉植物のセンチュウ類、ネコブセンチュウに適用のある薬剤がある。

しゃくやく

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
ナシケンモン	1. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し侵入防止を図る。	1. 幼虫は4月中旬～9月下旬に発生する。
イチゴセンチュウ	1. 定植前に土壌消毒を実施する。 2. 無寄生苗を定植する。	1. 6月～9月に発生する。 2. 花き類・観葉植物のセンチュウ類に適用がある薬剤で土壌消毒をする。 3. 土壌消毒に当たっては土壌消毒の項を参照。

宿根かすみそう

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
こ ぶ 病	1. 無病苗を用いる。 2. 発病圃場からさし芽をとらない。	1. さし芽の水揚げの際に発病株が混ざっていると高率で伝染する。
黒 斑 病	1. 発病のみられた枝や葉は直ちに剪除し、土中に埋没する。	1. 発病株の残渣は圃場外で処分する。

スターチス

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
ウイルス病	1. 被害株はそのまま放置しておくと伝染源となるので抜き取って集めて処分する。 2. アブラムシ類の早期駆除を行う。	1. CMV、TuMV、CYMVが主で他2種のウイルスが病原ウイルスである。 2. いずれのウイルスもアブラムシにより伝染する。

ストック

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
モザイク病	1. アブラムシ類の防除を育苗期から十分行う。 2. 発病株は抜取り処分する。	1. カブモザイクウイルス(TuMV)、キュウリモザイクウイルス(CMV)の2種ウイルスが病原で、TuMVの発生が多い。 2. いずれもアブラムシ伝搬である。
黒 腐 病	1. 発病地では連作をさけ4～5年間、他作物を栽培する。 2. 病床からは種子をとらないようにする。 3. 種子は次の方法で消毒する。53℃温湯に10分間浸漬してすぐ冷やす。	1. 発病株の残渣は圃場外で処分する。

トルコギキョウ

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
虫媒性 ウイルス病	1. アブラムシ類、アザミウマ類、タバココナジラミが伝搬するので、防除を徹底する。 2. 発病株は抜き取って処分する。 3. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し、媒介虫の侵入を防止する。 4. 除草により媒介虫の野外宿主を除去する。	1. ウイルス病(病原ウイルス)の種類と媒介虫は以下のとおり ・CMV, BBWV, BYMV, WMV:アブラムシ類 ・TSWV:ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ ・INSV:ミカンキイロアザミウマ ・IYSV:ネギアザミウマ ・TYLCV:タバココナジラミ

はなしょうぶ

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
アヤメキバガ	1. 幼虫は冬期に枯れた茎葉の中で越冬するので、これらを地際部から除去し処分する。 2. 3月末の出芽期に新芽が加害された株は株の中心が黄化するので被害株ごとに除去し処分する。 3. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し、侵入防止を図る。	1. 発蛾最盛期は露地では2回(第1回6月上旬、第2回8月下旬～9月上旬)である。

バ　ラ

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
枝 枯 病 腐らん病 すそ枯病	1. 発病している茎は切り取って処分する。	1. 病茎を切り取った刃物は、熱湯に浸漬して消毒する。
ヨコバイ類	1. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し侵入防止を図る。	1. シロズヒメヨコバイがもっとも普通にみられるが、アカシヒメヨコバイ、バラヒメヨコバイなども寄生する。
ハキリバチ類	1. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し侵入防止を図る。	1.6月頃から飛来し、葉を丸く食い切る。
ゾウムシ類	1. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し侵入防止を図る。	1. ゾウムシ類はクロケシツブチョッキリ、ヒメクロオトシブミ、イチゴハナゾウムシなどである。
ゴマダラカミキリ	1. 飛来した成虫を捕殺する。 2. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し侵入防止を図る。	1. 産卵盛期は6月下旬～7月下旬である。 2. 山寄りのバラ園では発生が多いので、特に注意する。
ホソオビアシブトクチバ	1. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し侵入防止を図る。	
チャハマキ、 チャノコカクモンハマキ	1. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し侵入防止を図る。 2. 綴られた葉の中にいる大きい幼虫は捕殺する。	1. 花き類・観葉植物のハマキムシ類に適用がある薬剤がある。
コガネムシ類、 ハナムグリ類	1.施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し侵入防止を図る。 2. 捕殺に努める。 3. 花は寒冷紗などで覆う。	

バ　ラ

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
ヨトウムシ類、オオタバコガ	1. 施設開口部に防虫網を設置(2 物理的防除法(4)防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)し侵入防止を図る。 2. 40wの黄色蛍光灯を80～100m^{2}に1本、高さ3mに設置し、6～11月まで毎日終夜連続して照明する。	1. 花き類・観葉植物のヨトウムシ類、オオタバコガに適用のある薬剤がある。

ベゴニア

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
斑点細菌病	1. 被害株は切り取って集め処分する。 2. 頭上灌水は避けて株元灌水する。 3. ハウスは換気をはかり、多湿を避ける。	
イチゴセンチュウ	1. 繁殖には健全な親株を用いる。 2. 被害株は切取って集め焼却する。	1. センチュウの寄生により、葉の一部は水浸状に枯れ、後に褐変枯死する。 2. 多湿時に葉枯れが進展する。

フリージア

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
モザイク病	1. 発病の甚だしい株は抜き取って処分する。 2. アブラムシが媒介するので、アブラムシ類を防除する。	1. インゲンマメ黄斑モザイクウイルス(BYMV)、キュウリモザイクウイルス(CMV)が病原ウイルスである。

プリムラ・さくらそう

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
斑葉細菌病	1. 発病葉は取り除き、灌水は頭からかけないようにする。	

ほ お ず き

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
モザイク病	1. 植付用の親株は実生によって育てた無病株を使用する。実生に使用する種子は次の方法で消毒する。 乾熱消毒 70℃ 3日間 2. 収穫時の鋏による伝染が多いので、鋏は実生による無病株ほ場と在来株ほ場を区別する。	1. 本病はToMV、、TMGMV、CMVによるが、ToMVやTMGMVが多く、種子伝染、汁液伝染、土壌伝染をする。CMVはアブラムシにより伝染する。
炭疽病 白斑病	1. 簡易なものでよいので、可能な限り雨よけ被覆を行う。梅雨時もしくは秋の長雨時だけでも高い防除効果が得られる。 2. 発病株は早めに抜き取り土中に深く埋没させるか、ビニル袋内に密封し完全に腐敗させる。 3. いずれの病原菌も静岡県の気候では植物体上で越冬可能なので、収穫後の地上部は放置せず処分を徹底する。	

マーガレット

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
茎 枯 症	1. 梅雨時と秋の長雨時にビニル被覆する。 2. 株が大きくなったら支柱を立て株が倒れないようにする。	

ゆ　り

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
モザイク病	1. 病徴の甚だしい株からは木子をとらない。 2.アブラムシが媒介するので、アブラムシ類を防除する。	1. キュウリモザイクウイルス(CMV)、チューリップモザイクウイルス(TBV)など5種類が病原である。

ラン 類

病害虫	防 除 方 法	防除上の注意事項
腐敗病	1. 発病株は早めに抜き取り、ビニル袋内に密封し完全に腐敗させる。 2. 過湿は発病を助長するので、排水を良好にするとともに、室内の湿度を下げる。	
カイガラムシ類		1. ラン類に寄生するカイガラムシ類は、アカホシマルカイガラムシ、ナガクロホシカイガラムシ、ランノナガカイガラムシ、ハンエンカタカイガラムシなどがある。